

## 専門職向け研修会の内容

### 在宅医療・介護連携推進研修会

- テーマ 「それは“誰の意向”？～本人の声が届きにくいときの、チームの役割とACP～」  
講師：在宅医療・緩和ケア・家庭医療専門医 細井 崇弘氏
- 開催日程 令和7年10月24日（金）午後2時00分から3時30分
- ねらい 本人の意思が確認できない場合における「ぶれない意思決定支援」のあり方について多様な立場から意見を出し合い、チームアプローチの重要性について理解が深まる。
- 参加者 合計 46名  
内訳：介護支援専門員22名、看護師6名、薬剤師5名、救急救命士4名、介護福祉士3名、理学療法士2名、サービス提供責任者1名、社会福祉士1名、生活相談員1名、管理栄養士1名
- 結果 アンケート結果から、「ACPは会議をしなくてはいけないのかと捉えていたが、日々の訪問時や関わりの中での会話も大切であることが分かった」「面談時には、過去の言動や価値観を一つでも多く聞き出して、支援につなげて行きたい」などの意見が挙がった。「結論を出すこと」よりも「プロセスを重ねること」が重要であることを再確認し、対話を通して本人・家族・支援者が価値観を共有し、時間をかけて意思形成を図る過程がACPの本質であるということを学べる研修会となった。
- 今後の展開 ACPの重要性は理解は深まったが、実際の現場では時間的制約や人員不足の中、継続的な対話を行うことが難しいため、日常の支援の中に自然に組み込めるような仕組みづくりや、もしバナゲームの周知を進め、広く活用されるよう取り組んでいく。

